

2つの200日移動平均超え

日経平均は1万7000円の大台に乗せ、200日移動平均も同時にクリアしてきた。25日移動平均が75日移動平均を上回るゴールデンクロスが示現したのが前回ザラ場高値の8月12日。その後、いったん押したが75日線できれいにサポートされ切り返し、一気に上値を抜いてきた。週明けの東京市場で日経平均が200日移動平均を上回れば昨年12月以来。[メールマガジン新潮流](#)の【今週のマーケット展望】で書いた通り、昨年のチャイナショック以来、1年余りに及んだ日本株とドル円の調整も終了が見えてきた。ここからは新しいステージの始まりである。

日経平均の推移



(出所) Bloombergよりマネックス証券作成

8月19日付レポート「[日銀のETF買いとドル円相場](#)」以来、主張し続けてきたことだが、ドル円相場は米国の年内利上げ観測の織り込みがまったく不足しており、現在は急速にキャッチアップしつつある状況である。円安進行が株高の明示的な背景であるのは間違いないが、もうひとつ重要な流れが7月末以来、進行してきている。

それは日銀が次回会合で行うと宣言した「総括的な検証」についての思惑である。市場の一部では、国債購入ペースの柔軟化とセットでマイナス金利の深掘りを打ち出すのではという見方が出ている。これを受けて国債のイールドカーブはスティープ化している。イールドカーブが立つということは長短スプ

レドが生まれ金融機関は利ザヤが稼げる。こういう状況になればマイナス金利が拡大されても銀行株が売られることはない。事実、過去1カ月の東証33業種別パフォーマンスのトップは銀行業である。その間、長期金利はずっと上昇してきた。

日本10年国債利回りの推移



(出所) Bloombergよりマネックス証券作成

10年債利回りは、マイナス0.022%。気が付けばプラス金利への浮上まであと少しのところに来た。10年債利回りの200日移動平均はマイナス0.02%。日経平均の200日移動平均超えに続いて10年債利回りもその水準を抜けてくる。長期国債先物はすでに先週200日移動平均を割り込んでいる。

長期国債先物ジェネリックの推移



(出所) Bloombergよりマネックス証券作成

今日のコラム【新潮流 2.0】で書いた通り、最初に提示されたときにはさんざんの評判だったマイナス金利政策も、展開次第ではこんなポテンシャルがあったと多くの市場関係者が思っていることだろう。

前段の文章に「長期金利」も加えよう。日本株、ドル円、そして長期金利の調整も終了が見えてきた。ここからは新しいステージの始まりである。但し、日本株とドル円については、「昨年のチャイナショック以来、1年余りに及んだ」調整と形容できるが、長期金利の長期低下トレンドがここで本当に大底を打って反転上昇に転じるかは、まだ予断を許す状況ではないだろう。

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会